

年報
独立行政法人
国立博物館
平成16年度

N
M
M

4

平成16年度 年報 目次

I 16年度事業実績報告

【法人全体】	1
【東京国立博物館】	
1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	19
2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	
(1) 収集・保管	24
(2) 公衆への観覧	30
(3) 調査研究	47
(4) 教育普及	65
(5) 国際交流	84
(6) その他の入館者サービス	97
【京都国立博物館】	
1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	101
2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	
(1) 収集・保管	104
(2) 公衆への観覧	109
(3) 調査研究	125
(4) 教育普及	129
(5) 国際交流	143
(6) その他の入館者サービス	146
【奈良国立博物館】	
1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	149
2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	
(1) 収集・保管	152
(2) 公衆への観覧	156
(3) 調査研究	172
(4) 教育普及	177
(5) 国際交流	191
(6) その他の入館者サービス	203
【九州国立博物館】	
1 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	
(1) 新たな博物館の運営に向けた取り組み	207
II 施設概要	216
III 財務諸表	220
IV 評価	
1 文部科学省独立行政法人評価委員会評価	242
2 独立行政法人国立博物館外部評価委員会評価	283
V 日誌	290
VI 運営委員・評議員・外部評価委員名簿及び組織図、役職員名簿（非常勤職員含む）	300
附属資料：事業実績統計表	321

I 事業実績報告

【法人全体】

1. 運営

○方針

16年度は、理事長等のトップマネジメントのもと中期目標に掲げられた

- ① 貴重な国民的財産である文化財を良好な状態で後世に伝え、文化の継承をしていく。
- ② 文化財を広く国民に紹介し、文化の向上・発展に努める。
- ③ わが国の「顔」として国際文化交流を推進する。
- ④ ナショナルセンターとして国内外の博物館の充実へ寄与する。

という国立博物館の設置目的に沿った事業を着実に実施するとともに独立行政法人国立博物館運営委員会等の提言に適切に対応すること、また、17年10月に開館する九州国立博物館の開館に支障のないよう諸準備を進めることを含め以下の5点を重要事項にした。

1. 法人本部機能の強化・組織改革
2. 文化財保護の推進
3. 平常展の活性化
4. 国際文化交流の推進（政府の観光立国への対応含む）
5. 九州国立博物館開設に向けた諸整備

○実績

1. 組織改革・法人本部機能の強化

○本部機能の強化

<本部事務局・東京国立博物館>

- ① 一体的で効率的かつ効果的な法人運営を図るため「東京国立博物館総務課」を「法人本部事務局総務課」に統合し総務、人事、企画事務の効率化・集約化を図った。
- ② 「施設使用料の料金設定など国有財産の使用料に準拠しているものが多く使用者やその目的を勘案し、提供するサービスに見合った料金設定に改善すること」との提言を受け幅広く資産の有効活用を図る目的から「会計課」を「資産活用課」に再編した。

○組織改革

<東京国立博物館>

来館者サービスの向上、イベントや地域との連携など組織的に対応するために15年度に渉外課を設置したが、館全体として取組む姿勢を広く周知するために「総務部」を「営業開発部」に改めた。

<京都国立博物館>

- ① 施設の貸し出し、地域との連携、お客様サービスの一層の充実を図るため「総務課」を「渉外課」に改組した。
- ② 研究分野の明確化及び強化を図るために「京都文化資料センター」を「文化資料課」に改め各室の再編も行った。

<奈良国立博物館>

17年度に向けて組織改革の検討を行った。

<九州国立博物館>

17年度機関設置に向けて福岡県との連携の在り方について協議を行うとともに組織構築の検討を行った。

2. 文化財保護の推進

○ナショナルセンターとしての取組み

自然災害が文化財に及ぼす影響を注視するとともに国立博物館として文化財の保護に向けた活動に積極的に協力する。

・「地震災害」

16年10月23日に発生した新潟県中越地震は、文化財へも甚大な被害をもたらす結果となった。被災した文化財の実地調査のため文化財保存修復学会会員である東京、京都、九州各館の保存修復分野の研究者が現地へ赴き被害状況の調査や支援要請の確認を行った。今後、国立博物館4館は文化庁の指示に沿った協力を行うこととした。

なお、この震災により被災した文化財の一部（津南町所蔵未指定文化財）を九州国立博物館で修復し展示公開する予定である。

また、東京国立博物館ではこの地震により二次元免震装置上に展示された文化財が転倒破損する被害が発生した状況を踏まえ免震装置の有効性の確認を行った。

以上の取組みについて危機管理担当理事（鷲塚奈良国立博物館長）へ報告を行うとともに早急に各館の耐震状況調査に着手した。

・「台風災害」

奈良国立博物館は、16年9月の台風18号により被害を受けた巖島神社の復興支援のため巖島神社の優品による特別展「台風被災復興支援 巖島神社国宝展」（1月2日～2月13日）を緊急に企画し巖島神社の復興に協力した。

○文化財の修復と改修

東京国立博物館では、度重なる台風により被災した重要文化財の黒門や九条館・応挙館の修復と改修を行った。

3. 平常展の活性化

お客様に“何度でも足を運んでみたい”と思っていただくために平常展の充実に取り組む。

○平常展の企画

各館とも平常展の活性化を図るため時機に合わせた特別公開や特集陳列などを企画するとともに広報にも努めた。

東京：特別公開「国宝 吉祥天画像」

京都：特集陳列「皇后陛下ご養蚕の小石丸 正倉院裂復元模造の十年」

奈良：特集陳列「大和の神々と美術 談山神社の名宝」

○展示作品の充実

展示作品の充実を図るため寄贈品・寄託品を増やす取り組みを行った。

東京：本館リニューアルにおいて寄贈者を顕彰するために「寄贈者顕彰室」を設けた。

奈良：寄贈者名を表記したパネルを掲示し寄贈者を顕彰した。

○展示室の改善

東京国立博物館では、15年度に本館2階を時代順の陳列「日本美術の流れ」にリニューアルしたが、16年度はお客様の要望も反映させ、未整備であった1階も含め以下のコンセプトにより本館の全面的なリニューアルを行い、9月にグランドオープンさせた。

- ・分かりやすくするために本館2階を単なる時代展示からもう一步推し進め日本美術の特質に照準を合わせた「仏教の興隆」など時代ごとのテーマを設定する。
- ・「もっと見たい」「もっと詳しく知りたい」との要望に応えるため本館1階に彫刻・陶磁・刀剣等のひとつの分野にこだわった展示室を設ける。
- ・初めてのお客様にも展示館のイメージを掴んでもらえるよう本館を「日本ギャラリー」、東洋館を「アジアギャラリー」とする。

4. 国際文化交流の推進（政府の観光立国への対応含む）

○海外文化交流展

海外の文化を日本に紹介する展覧会の開催

<東京国立博物館>

「中国国宝展」「踊るサテュロス」を開催

<奈良国立博物館>

「黄金の国・新羅—王陵の至宝—」を開催

○学術文化交流

海外の博物館等との研究交流の推進

<東京国立博物館>

- ・大韓民国・国立中央博物館との間で学術・文化交流の協定を結び両館の職員の交流を図った。
- ・海外で開催された「国際シンポジウム」に職員を派遣し研究成果の発表等を行った。
- ・サンフランシスコアジア美術館等の海外研究者を招聘し学術交流を推進した。

<奈良国立博物館>

- ・ベルリン東洋美術館、韓国・国立慶州博物館、中国上海博物館等へ調査・交流のため職員を派遣した。
- ・大韓民国・国立慶州博物館との間で学術交流協定を見直しつつ、新たに協定を継続締結した。
- ・中国上海博物館及び中国国家博物館との間で、新たに学術交流協定を締結した。

<九州国立博物館>

- ・展示資料収集等のため中国国家博物館等へ職員を派遣した。

○外国人のお客様への対応

多くの外国人のお客様に来館していただくための取組み

① ビジット・ジャパン・キャンペーンへの協力

政府・国土交通省が推進する「ビジット・ジャパン・キャンペーン（観光立国行動計画）」の集中キャンペーン期間（2月5日～20日）に展覧会情報等の提供を行い国立博物館の存在をアピールした。

② 外国語表記の充実

外国の方々に理解し、楽しんでいただけるよう作品解説等の外国語表記の充実に努めた。

<東京国立博物館>

平常展については、本館の「日本美術の流れ」において4カ国語の作品解説冊子を作成し希望者に無料配布しているほか、特別展においても代表的な作品の解説に英文表記を制作した。

<京都国立博物館>

代表的な作品の解説や展覧会のテーマについて英語の表記を制作した。

<奈良国立博物館>

チラシ、出版物、ホームページなどを有効に活用し外国語の作品解説を行った。

③ 「留学生の日」の実施

国立博物館3館は、「留学生の日」を設けて日本で学ぶ留学生に平常展の無料観覧、展示解説、お茶会、邦楽演奏などを行い日本の伝統文化に親しむ機会を提供した。

16年度は、大学生・院生のほか新たに各種学校生、外国語指導助手も対象に加えたほか特に奈良国立博物館では特別展「正倉院展」の無料観覧や「着物で正倉院を見よう」イベントを開催し参加者の増を図った。

5. 九州国立博物館開設に向けた諸整備

○正式名称と開館日の決定

- ・九州国立博物館（仮称）の名称を九州国立博物館に正式に決定し、併せて17年10月16日から一般公開することとした。
- ・九州国立博物館のシンボルマーク等を制作し積極的に広報活動を展開した。

○運営・組織体制

九州国立博物館は、独立行政法人国立博物館九州国立博物館と福岡県立アジア文化交流センターが連携協力して一体的に運営する博物館とし、独立行政法人が主として展示及び博物館科学を、福岡県が主として情報、交流及び教育普及を担う組織体制とした。

○各館との連携・協力

17年の開館に向け各館との間で作品の貸与等を積極的に行った。これにより十分な確保が図られた。

○施設の進捗状況

展示ケース、収蔵庫棚の工事は完了した。今後は、展示具の製作・作品の写真撮影などの展示に向けた周辺整備を進める。

○自己点検評価

【理事長のトップマネジメントと指示】

17年10月の九州国立博物館の開館に向け、特に16年度は当面の課題である組織・運営体制を文化庁・福岡県とも緊密に連絡調整し確立するよう指示した。

また、16年度は独立行政法人化後4年目を向かえることから国立博物館の目的を再認識し、もって博物館に求められている事業の整理・見直しを間断なく行うよう、役員会等の会議において指示した。

国立博物館の経営方針については、広く国民に理解していただけるよう法人本部のホームページを活用し「理事長の思い・想い・念い」として周知した。

【役員会と外部の方々への意見聴取】

国立博物館の運営方針を決定する役員会は6回開催した。

「国立博物館運営委員」「国立博物館外部評価委員」の提言、来館者やメールによるお客様の声を真摯に受けとめ博物館の運営に反映させた。

【評価】

各事業の詳細は、16年度実績報告書・総計資料に譲ることとし、一部目標値を下回った事業もあったが、全体としては運営方針に基づき着実に成果が上げられたものと考えている。

17年度は現中期計画の最終年度に当たり中期計画の着実な遂行と次期中期計画に向けた独立行政法人としての運営の諸課題について再検討することとしたい。

(5) 国際交流

① 展覧会

「中国国宝展」(共催展)

○方 針

仏像や舍利塔関連作品を中心に、中国全土から中国仏教美術の粋を集め、近年新発見の考古遺物と共に展示し、中国文化の真髄に触れる。



○実 績

- 1) 開会期間 16年9月28日～11月28日(54日間)
- 2) 会 場 平成館2階 特別展示室第1室～第4室
- 3) 主 催 東京国立博物館・朝日新聞社・テレビ朝日・中国国家文物局・中国国家博物館(中国文物交流中心)
後 援 外務省・文化庁・中国大使館・(社)日中友好協会・人民日報社
協 賛 トヨタ自動車株式会社・凸版印刷株式会社・松下電器産業株式会社・東日本旅客鉄道株式会社
協 力 講談社・小学館・ニッセイ同和損害保険・全日空
- 4) 陳列品総件数 164件
- 5) 入館者数 27万2,754人(目標13万人)
- 6) 入場料金 大人1,300円 大学・高校生900円 小・中学生以下無料
- 7) 担当した研究員数 3人
- 8) 展覧会の内容
日本の仏教文化にも大きな影響を与えた中国仏教美術の約千年にわたる変遷と、中国考古学の新発見の中から近年の重要な成果に焦点をあて、164件の作品によって、中国文化の真髄を紹介した。
- 9) 講演会等(開催期間 場所 参加者数 講師等)
 - ① 「中国の仏教美術」(記念講演会)(10月9日 平成館大講堂 137人 当館特別展示室長 小泉恵英)
 - ② 「中国考古学の新発見」(記念講演会)(10月30日 平成館大講堂 303人 当館列品課長 谷豊信)
- 10) 広報
ターゲット：広く一般の歴史・美術愛好家、中国美術の愛好者
重点項目：中国美術・歴史及び中国の史跡に興味のある中・高年層、中国系団体へのプロモート
共催者朝日新聞の紙面及びテレビ朝日の特別番組による周知広報活動
特記事項：共催者朝日新聞の紙面に大規模な特集記事を複数回掲出。展覧会の意義や作品の価値について、じっくり読ませる記事で深くアピールした。
広報キャラクターとしてタレントのはな氏を起用。
- 11) アンケート調査：
 - ① 調査期間 会期中全日
 - ② 調査方法 観覧者の任意記入回答形式(アンケート用紙・記入用鉛筆・回収箱を記入用デスクに配置。場所：平成館2階第4室出口横)

- ③ アンケート回収数 3,907件
- ④ アンケート結果 とても良い39.7% (1,551件)、良い38.3% (1,497件)、ふつう13.2% (517件)、あまり良くない2.9% (115件)、良くない1.4% (53件)、無回答4.5% (174件)

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- ・中国の仏教美術に焦点を当てた初の大規模で本格的な展覧会となり、千年に及ぶ中国仏教美術の全体像や、古代日本文化との関連等について、実際の作品を通じてより具体的な理解を深める一助となった。
- ・中国当局の特別な協力により、日本初公開となる最新の発掘成果を数多く紹介することができ、東アジアの古代文化に関する新たな側面を提示した。
- ・仏教美術のコーナーでは、ゆったりとした配置で作品を展示したため、相当数の観覧者がありながら、常に快適な展示環境を提供することができた。
- ・展示品の間隔が比較的広めであったことや、壁面を有効に使用できたため、一部の作品解説パネルを通例よりさらに大きめに作成したところ、解説文が読みやすいという好評を得た。
- ・記者発表会にタレントのはな氏や中国大使関係者が出席し、話題作りに貢献した。
- ・中国の歴史を扱う週刊ブックレットや中国系の新聞と提携し、展覧会の出品作品に関する連載コラムを企画したことにより、多角的に本展をアピールすることができた。

【見直し又は改善を要する点】

- ・中国における事前調査を綿密に行うことで、質の高い作品を選定することができたが、その反面、経費が多額に上ったという共催者からの指摘があった。今後は、展覧会全体の計画を事前により綿密に組み立て、経費面での効率化に一層努めていく必要がある。
- ・最初のコーナーでは、展示作品の数がやや多めであったため、観覧者の滞留を招く場合があった。展示品の配置について、より適切なディスプレイとなるよう、今後も検討を重ねていきたい。
- ・仏教美術が主体となる内容でありながら、展覧会名を中国国宝展としたため、展覧会タイトルと内容との齟齬があるという指摘が寄せられた。展覧会の名称を決める際には、誤解等を与えないよう、分かりやすく、同時に内容を的確に示すような配慮が一層求められる。

「亀山法皇700年御忌記念特別展 南禅寺」展（共催展）

○方 針

南禅寺は京都・鎌倉両五山の上位に君臨するとともに、幾多の名僧を輩出した関係から、常に我が国の政治史の中で重要な位置を占めてきた。と同時に、京都の地に禅文化を根づかせ発展させる担い手となったのも、南禅寺と彼等禅僧たちであったといつてよい。本展では、普段あまり見ることの出来ない南禅寺及びその塔頭が所蔵する文化財を、時代を追いながらテーマ別に展示することで、名僧たちが織りなしたその歴史と禅文化の奥深さを理解、堪能していただくことを目標とする。



○実 績

- 1) 開会期間 16年 4月6日～5月16日
- 2) 会 場 特別展示館
- 3) 主 催 京都国立博物館、大本山南禅寺、朝日新聞社、朝日放送
- 後 援 文化庁
- 協 賛 凸版印刷
- 協 力 日本香堂
- 4) 陳列品総件数 130件（うち国宝4件、重要文化財41件）
- 5) 入館者数 6万2,665人（目標 5万人）
- 6) 入場料金 大人1,200円（1,000円）、大・高生800円（600円）、中・小学生400円（200円）
*（ ）内は、団体
- 7) 担当した研究員数 12人
- 8) 展覧会の内容 亀山法皇御忌700年を記念して、南禅寺の文化財を展示



9) 講演会等

・記念講演会

5月1日 南禅寺の禅風 大本山南禅寺派管長 中 村 文 峰 氏

・関連土曜講座

4月10日	南禅寺の歴史—亀山法皇による創建—	研究員	羽 田 聡
4月17日	南禅寺と水墨画—名僧たちの営為—	美術室長	山 本 英 男
4月24日	南禅寺一切経—開宝蔵と高麗初雕本—	保存修理指導室長	赤 尾 栄 慶
5月8日	南禅寺の高僧と袈裟	研究員	山 川 暁
5月15日	南禅寺の障壁画—永徳・等伯・応挙—	文化資料課長	狩 野 博 幸

10) 広 報

- ・ 記者発表：4月5日
- ・ 博物館だより等：京都国立博物館だより（142号）、KYOTO NATIONAL MUSEUM NEWS LETTER（vol.82）、催事案内及びホームページでの予告・紹介
- ・ 看 板：敷地内6箇所以上、京都駅前に設置
- ・ 報道資料：2月下旬に画像を多用した資料を作成し、プレス資料や観光誘致資料として使用
- ・ ポスター・チラシ：3月初旬にオリジナルポスターを作製し、報道関係者、南禅寺関係団体、美術館・博物館、ホール、ギャラリー、大学、高等学校、中学校、専門学校、教育関係者、図書館、社寺、観光業者、古美術商、ホテル等に配布。また、JR西日本、JR東海、京阪電気鉄道、阪急電鉄、近鉄電車の構内・車内等にて掲出
- ・ 海外・外国人対象：伝統芸能紹介冊子「MEET OSAKA」への展覧会情報掲載、英字新聞社・英字週刊誌への情報提供、外国人観光客向け冊子「KYOTO VISITORS GUIDE」等への展覧会情報掲載
- ・ 新 聞：朝日・毎日・京都新聞社等で紹介
- ・ テレビ・ラジオ：朝日放送、関西テレビ、KBS京都、京都チャンネル等のテレビにて紹介。FM京都等地域のラジオ放送にて紹介
- ・ 雑誌等：多数の一般誌、各会報誌、ミニコミ誌、ホームページ、タウン誌等にて紹介

11) アンケート調査

- ① 調査期間 4月6日～5月16日
- ② 調査方法 記入式
- ③ アンケート回収数 761件
- ④ アンケート結果 良い60%（460件）、まあまあ良い32%（241件）、どちらともいえない4%（29件）、あまり良くない1%（11件）、良くない1%（8件）

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- ・ 本展開催に備え、南禅寺及びその塔頭が所蔵する全ての文化財調査を行った。その結果、貴重な文化財が新たに数多く見出され、展示に供されたことは、展覧会の質を高めたという意味で特筆される。
- ・ これまでほとんど展示されることのなかった三門の二階に安置される十六羅漢彫像を二軀展示した。この試みは、作品自体の圧倒的迫力とともに、近世初期における南禅寺の復興ぶりを具体的な形で提示した点でも好評を博した。
- ・ <巨刹の始まり><繁栄の軌跡><信仰と風雅><蘇る南禅寺><新たな装い>という5つのテーマ設定も、南禅寺の歴史と禅文化を把握する上で、きわめて有効であった。また、展覧会の副題として付けた「名宝でつづるスーパー禅寺物語」は展覧会に親しみやすさをもたらしたと好評であった。
- ・ 南禅寺展のチケットがあれば、会期中、南禅寺の「三門」「方丈」「南禅院」の拝観を特別に無料公開にするという初の試みを行った。アンケート結果でも今後もこういった寺院との連携をしてほしいとの声があり、非常に好評であった。寺社側の了解が得られれば、今後も続けていきたい。

「第56回正倉院展」(特別展)

○方 針

昭和21年から開始され、国民的行事として定着している恒例の正倉院展は、正倉院宝庫の宝物点検の際に宮内庁から例年約70件の貸与を受け、当館にて公開展示するものであり、本年度で56回目を数える。奈良時代の優れた文化財を鑑賞するまたとない機会として例年多数の入館者があり、その中には固定的ファンも多く、奈良朝文化に一定の知識を有する研究者に対しても十分な満足感を与える展示を目指す。

また、最近の新しい調査結果を反映させる内容となるように配慮している。



○実 績

- | | | | |
|-------------|---|-----------------|---------|
| 1) 開会期間 | 16年10月30日～11月15日 | | |
| 2) 会 場 | 東・西新館 | | |
| 3) 主 催 | 奈良国立博物館 | | |
| 協 力 | 朝日新聞社、NHK奈良放送局 | | |
| 4) 陳列品総件数 | 75件 (うち初公開12件) | | |
| 5) 入館者数 | 13万1,978人 (目標13万人) | | |
| 6) 入場料金 | 大人1,000円 (900円) 高校・大学生700円 (600円)
小・中学生400円 (300円) () 内は前売り及び20人以上の団体料金 | | |
| 7) 担当した研究員数 | 13人 | | |
| 8) 展覧会の内容 | 聖武天皇と光明皇后御遺愛の品々をはじめ、東大寺ゆかりの儀式具・装束・仏具・献物箱等を出陳し、正倉院宝物の全容が概観できる内容とした。今回は特に楽器、伎楽面等楽舞関連の遺品、また寺院の荘厳に用いられた仏教関係の遺品が多く出陳され、最近の調査研究の成果を反映した展示となった。 | | |
| 9) 講演会等 | 公開講座 | | |
| | 10月30日(土) 正倉院文化の源流 | 早稲田大学名誉教授 | 長澤 和俊 氏 |
| | 11月3日(水) 正倉院の楽器 | 工芸考古室長 | 内藤 栄 |
| | 11月6日(土) 装束から見た伎楽 | 宮内庁正倉院事務所保存整理室員 | 田中 陽子 氏 |
| | 11月13日(土) 正倉院の戸籍からよみとる奈良時代の社会 | 情報サービス室研究員 | 野尻 忠 |
| | ギャラリートーク | | |
| | 11月5日(金) 正倉院宝物の魅力 | 工芸考古室長 | 内藤 栄 |
| | 11月12日(金) 正倉院宝物の魅力 | 工芸考古室長 | 内藤 栄 |
| 10) 広 報 | <ul style="list-style-type: none"> ・報道発表 7月23日(金) ・奈良国立博物館だより(第51号)及び当館ホームページでの予告・紹介協力者(朝日新聞社)ホームページでも特集ページの掲載 ・看板(敷地内10箇所及びバナー広告、近鉄奈良駅構内2箇所) ・ポスター・チラシ | | |

近鉄全線（ポスター駅貼、車内吊り）、JR 西日本（ポスター駅貼）、教育委員会、美術館・博物館、大学、図書館、社寺、観光業者、地元タクシー、ホテル・旅館、飲食店等

・新聞社

朝日新聞社（特集記事、宝物紹介（連載）、広告記事、関連行事、社告等）、産経、読売、日経、毎日、奈良、奈良日日ほか

・テレビ・ラジオでの紹介（新日曜美術館 11月7日放映（NHK）等）

・外国人向け伝統芸能紹介冊子「MEET OSAKA」への展覧会情報掲載

・JR 西日本 正倉院展のヘッドマーク付き電車の運行・車内放送

・奈良市観光協会発行季刊誌「大和の四季彩」への掲載

・奈良市観光協会及び JR 東海の協力により、東京駅他首都圏を中心にチラシを4都市6ヶ所の駅に設置

11) アンケート調査

- ① 調査期間 16年10月30日～11月15日
- ② 調査方法 会場内にアンケートコーナーを設け、観覧者が自由に記入。
- ③ アンケート回収数 1,097件
- ④ アンケート結果 良い77% (841件)、普通16% (172件)、悪い5% (49件)、無回答3% (30件)

12) その他

- ・会期中、解説ボランティアによる作品解説を毎日実施（11月1日を除く）（延べ72回開催）
- ・関連行事 お茶会（主催）



「文楽の夕べ」（主催）



「バロック音楽の夕べ」（主催）



「雅楽の夕べ」（主催）



「着物で正倉院展を見よう」

北村昭斎氏の講演及び工芸技術記録映画「螺鈿—北村昭斎のわざ—」の上映（文化庁との共催）



- ・音声ガイド 日本語版、英語版、子供版
- ・学習コーナーにおいて文化庁制作の工芸技術記録映画を上映した。
- ・英語版図録の刊行
- ・奈良県農林部による「奈良のうまいもの」キャンペーンの実施協力（会場提供）

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- ・初出陳の作品を加えて、リピーターにとっても新鮮味のあるより興味深い展示となった。
- ・比較的多数の入館者があったが、展示順路の整理や、作品配置の間隔を広げる等の工夫をした結果、会場に混乱はなく、整然と場内整理ができた。
- ・朝日新聞社の広報協力を得て、広報の徹底を図ることができた。（朝日新聞・特集記事10月19日ほか）
- ・11月1日に実施した「留学生の日」にあわせ、留学生を対象に「着物で正倉院展を見よう」と題し、イベントを実施したことにより、日本文化の理解を深めることができた。また、参加者からは好評を得た。
- ・昨年に引き続き、小・中学生の観覧理解促進のため、一般の音声ガイドに加えて、子供向け音声ガイドを導入した。
- ・奈良市観光協会及びJR東海の協力を得て、東京駅他首都圏を中心にチラシを4都市6ヶ所の駅に設置することができたことにより、関東方面への広報の充実を図ることができた。
- ・学習コーナーにおいて工芸技術記録映画を上映し、工芸技術に対する理解を深めることができた。
- ・お茶会、合唱コンサートなどの関連行事及び奈良県農林部による「奈良のうまいもの」キャンペーンを開催し、憩いの場と話題作りに努めた。

【見直し又は改善を要する点】

- ・平成13年度をピークとして、入館者数が漸減している。奈良朝工芸を展示するまたとない機会なので、マスコミ等と協力するなど更に具体的な方法で動員を工夫したい。

「ホップ・ステップ・九博」展

○方 針

49件の展示資料ではあるが、アジア史的観点から見た文化交流の歴史認識とその魅力を紹介するため、文化交流展示テーマの一端を披露する。

- ・重要文化財10件、重要美術品2件を含む49件の展示品を使い、九州国立博物館の文化交流展示から2つのテーマを取り上げ紹介する。

また、装飾古墳ヴァーチャル・リアリティー映像の公開、教育普及プログラムの実施博物館科学部門の展示を行い、九州国立博物館を多角的に紹介する。

- ・展示室は、東京国立博物館本館特別2室・4室を利用し、それぞれの展示室に特徴を持たせる。



○実 績

- 1) 開会期間 17年2月15日(火)～17年4月10日(日) (51日間)
- 2) 会 場 東京国立博物館本館特別2室・特別4室
- 3) 主 催 九州国立博物館設立準備室、東京国立博物館
- 4) 陳列品総件数 49件 (うち重要文化財10件、重要美術品2件)
- 5) 入館者数 4万3,038人
- 6) 入場料金 大人420円(210円) 大学生130円(70円)
()内は、20人以上の団体料金
- 7) 担当した研究員数 10人
- 8) 展覧会の内容 開館準備状況を①2つのテーマ展示、②装飾古墳VR映像、③博物館科学部門展示、④教育普及プログラム実施、⑤研究員によるギャラリートークの実施により紹介する。



- 9) ギャラリートーク 6回
- 10) 広 報 チラシを首都圏を中心とした官公署、学校、美術館・博物館、旅行社など約3,000カ所に送付。月刊文化財、国立博物館ニュース、報道機関への発表及び資料提供等を実施。
- 11) アンケート調査 展示室内にアンケートコーナーを設け、観覧者が自由に記入。
 - ① 調査期間 17年3月27日～17年4月10日
 - ② アンケート回収数 58件

③ アンケート結果 満足29% (17件)、なかなか41% (24件)、まあまあ26% (15件)、不満3% (2件)

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- ・小規模であったが、九州国立博物館の魅力を感じていただくため、展示方法、作品の名称、展示解説ラベル（題せん）などに工夫を凝らした。また、東京国立博物館教育普及課と共同でボランティアによる教育普及プログラムを合計48日間実施するなど、多様な展示を実施した。
- ・九州国立博物館研究員によるギャラリートークを実施するなど、開館に向けて实际的な展示活動を実施できた。

【見直し又は改善を要する点】

- ・小規模なスペースに内容を盛り込みすぎた感がある。
また、解説パネルの内容等に分かりにくい点があり、改善の必要がある。
- ・展示スペースや展示品が限定されたこともあり、九州国立博物館の特色を充分には伝えられなかった。